



方針 (基本的な考え方)

日油グループでは、廃棄物の削減のため資源循環の取り組みを積極的に行っています。

- (1) 廃棄物の有価物販売と内部処理の推進: 廃棄物を有価物として販売し、内部での処理を積極的に推進しています。これにより、廃棄物の再利用や資源化を通じて、資源の効率的な利用を促進しています。
- (2) 分別廃棄の維持と工程改善による発生廃棄物の削減: 廃棄物の分別を維持し、工程改善を行うことで、発生する廃棄物の量を削減しています。この取り組みにより、資源の無駄遣いを防ぎ、効率的な資源利用を実現しています。
- (3) リサイクル処理業者の継続的な探索と処理実施: リサイクル処理業者との継続的な連携を図り、廃棄物のリサイクル処理を積極的に実施しています。この取り組みにより、資源の再利用を推進し、資源の効率的な利用と廃棄物の削減を実現しています。
- (4) 既存廃棄物のリサイクル化による埋立減: 既存

の廃棄物をリサイクル化することで、埋立地への投棄を減らしています。

資源循環の目標

日油グループでは、目標を掲げて資源循環の取り組みを促進しています。

- (1) ゼロエミッション^{※1}率: 毎年0.10%以下
廃棄物の分別やリサイクルを促進し、埋立処分に投棄される廃棄物の発生を可能な限り抑制します。
- (2) 廃プラスチック廃棄物のリサイクル率^{※2}: 毎年94%以上 (2024年度から)
資源循環と資源の有効活用のため、廃プラスチック廃棄物のリサイクルを進めています。

ゼロエミッション化の推進

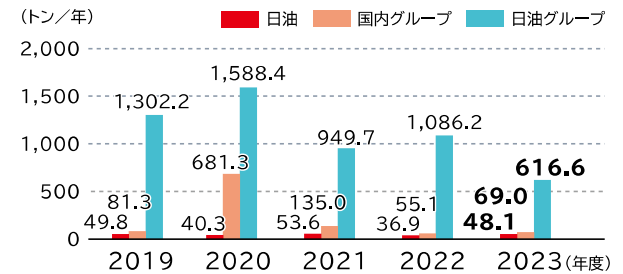
2023年度の国内グループの最終埋立処分量は69.0トンで、ゼロエミッション率は0.050%でした。

一方、日油の最終埋立処分量は48.1トンで、ゼロ

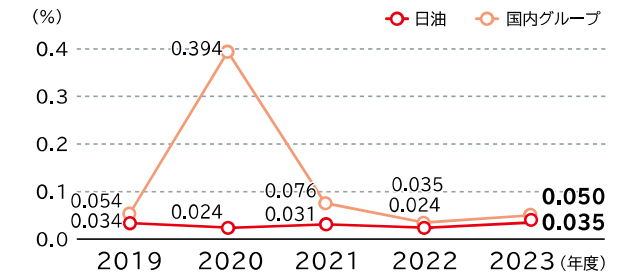
エミッション率0.035%でした。

引き続き、分別回収やリサイクルなどを推進し、最終埋立処分量の低減に努めていきます。

最終埋め立て処分量の推移



ゼロエミッション率の推移



※1 企業活動や生産活動を通じて排出される廃棄物の埋め立て処分量を、限りなくゼロにすること。ゼロエミッション率の定義: (最終埋立処分量/廃棄物等発生量) × 100

※2 リサイクル率の定義: (熱回収、マテリアル、ケミカル処理した廃プラ量/廃プラ排出量) × 100



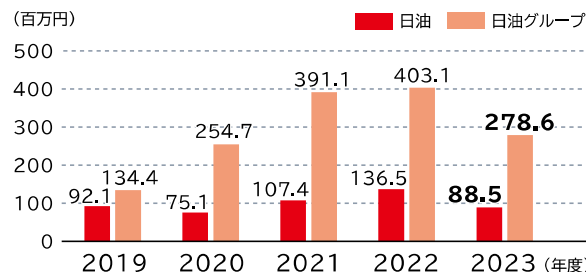
廃棄物の再資源化

2023年度は、日油グループの廃棄物の再資源化による販売額は、337百万円となりました。引き続き、リサイクルやリユースを通じて資源の有効活用を積極的に取り組む方針です。

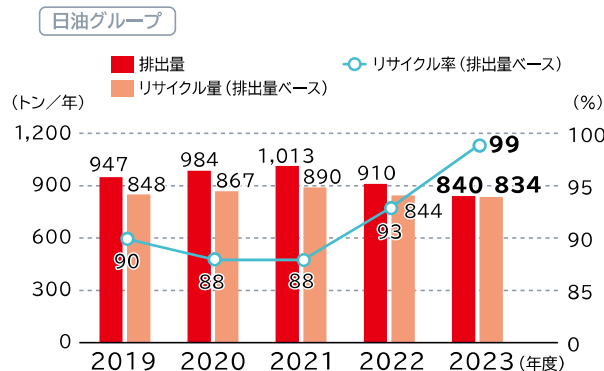
また、2023年度は、日油グループで、廃プラスチック排出量が70トン減少の840トンとなり、排出量に対するリサイクル率も99%まで向上しました。さらに、国内グループの廃棄物の再資源化による販売額は、279百万円となりました。

私たちは、引き続き廃プラスチックの分別・リサイクルを積極的に行い、再資源化に取り組めます。

有価物売却金額の推移



廃プラスチックの再資源化量およびリサイクル率の推移



※ リサイクル率=(マテリアル、ケミカル、サーマル)リサイクル量 / 廃プラスチック全排出量

※ 2019年~2022年の排出量およびリサイクル量(排出量ベース)を精査した結果、昨年度報告値から修正しました。

工場排出廃棄物量の推移 (トン)

分類	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
日油グループ	28,446	28,955	29,164	25,157	22,541
国内グループ	23,662	24,176	23,796	21,270	19,132
日油	22,721	22,529	22,822	20,493	18,463

工場排出廃棄物の処理内訳 (2023年度) (トン)

分類	工場排出廃棄物量	リサイクル量	外部処理量	最終埋立処分量
日油グループ	22,541	14,238	7,481	823
国内グループ	19,132	13,511	5,552	69
日油	18,463	12,939	5,477	48

工場排出廃棄物の内訳 (2023年度) 日油グループ

